

研究

		A1	A2	A3	A4	A5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度単位でひとつの業務を実施することができるレベル</li> <li>・個人、家族への基本的な支援に責任をもつレベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数年単位で複数の業務の方向性を決定し、実施することができるレベル</li> <li>・集団、組織、地域への基本的な支援に責任をもつレベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数業務の展開、改善に責任をもつレベル</li> <li>・住民、関係機関と協働し、より深い支援に責任をもつレベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理的役割の補佐ができるレベル</li> <li>・施策化、システム化の提案に責任をもつレベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁的な管理的役割を担うレベル</li> <li>・施策化の立案、システム化に責任をもつレベル</li> </ul>
保健師の活動領域	<p>元のラダー→ (能力を発揮して行うこと・行動レベル)</p> <p>↓求められる能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護に関する研究問題を検討できる。</li> <li>・公衆衛生看護に関する研究設問を設定できる。</li> <li>・研究計画に基づきデータ収集できる。</li> </ul>	<p>研究成果を公衆衛生看護の実践と照らし合わせて意味づけをすることができる。</p>	<p>研究のリーダーシップをとることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの研究遂行の指導ができる。</li> <li>・研究計画を評価できる。</li> <li>・研究遂行のプロセスを評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究により、実践を改善する風土を職場内に醸成することができる。</li> <li>・職場内における学会発表や論文作成を推進することができる。</li> </ul>
研究	①適切な研究デザインを用いて評価計画を立案する能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種計画の目標到達度を測る評価計画に用いられている研究デザインと評価指標について研究方法論の視点から理解できる。</li> <li>2) 指導のもと、評価計画に基づきデータを収集できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 指導のもと、各種計画の目標到達度を測る評価計画を研究方法論に基づいて立案できる。</li> <li>2) 評価計画に基づきデータを収集できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記のリーダーシップをとることができる。</li> <li>2) 各種計画の目標の到達度を測るための適切な研究デザインを研究方法論に基づいて自ら選択し、評価計画を立てることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画を評価できる。</li> <li>2) 研究の目標、実施計画、事業計画、実施体制が適切か評価することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評価計画を費用対効果の視点から評価できる。</li> <li>2) 前年度(あるいは3年、5年単位)の評価に基づいた改善された計画であるかを評価・指導できる。</li> </ol>
	②評価計画に基づき評価、政策・施策評価する能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関連業務について評価計画に基づいて評価された結果、および過去の各種政策・施策の評価の経過と結果を研究方法論の視点から理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評価計画に基づきデータを集計し、評価結果を文章化・図表化できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記のリーダーシップをとることができる。</li> <li>2) 文章化・図表化された評価結果を分析し、政策・施策の課題と方向性を検討できる根拠資料(エビデンス)を作成できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記についてのスタッフの政策・施策評価遂行の指導ができる。</li> <li>2) 各担当スタッフが作成した評価結果に基づく根拠資料(エビデンス)を統合し、管轄全体の課題と方向性、優先度を検討し、根拠に基づく提言書(起案書)を作成できる。</li> <li>3) 多様なデータの活用、研究デザインを理解し、立案された計画について評価できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記の一連のプロセスを把握し、個々の研究能力、研究成果を実践に活かす能力の評価・指導ができる。</li> <li>2) 多様なデータの活用、研究デザインを理解し、これまで活用できていなかったデータを活用できる。</li> </ol>
	③日頃から研究的視点をもって活動し、保健活動の改善に向けた研究を遂行する能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現場における研究の意義を理解する。</li> <li>2) 日頃の公衆衛生看護活動から研究課題(リサーチクエスト)を探り、文章化できる。</li> <li>3) 職場で取り組まれている研究に参加する。</li> <li>4) 自分の業務に関連する文献等を読む。</li> <li>5) 実践活動をおとして感じたことや印象に残ったこと、疑問に感じたことを文章化・図式化する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現場における研究の意義を説明できる。</li> <li>2) 指導のもと、選定した課題に応じた研究方法と対象の選択を検討した研究計画を立案できる。</li> <li>3) 研究課題を決定し、研究方法の選定ができる。</li> <li>4) 地域の健康課題、現状に関するデータを収集、分析できる。</li> <li>5) 研究成果を文章化することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記のリーダーシップをとることができる。</li> <li>2) 後輩の研究計画の指導ができる。</li> <li>3) 現場における研究の意義を同僚と確認できる。</li> <li>4) 研究目的を明確にし、科学的根拠に基づいた研究計画を立案し、実施できる。</li> <li>5) 多職種が実施する共同研究に参加できる。</li> <li>6) 研究遂行の管理ができる。</li> <li>7) 研究の限界への対処方法を明確にできる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニティの問題を研究課題として、多角的な視点から研究ができるよう指導する。</li> <li>2) 研究遂行のプロセスに参加・協力・指導し、評価できる。</li> <li>3) 現場における研究の意義を職場内に周知できる。</li> <li>4) 研究におけるプロセス(学習、結果の分析、まとめ方法等)について評価できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記とともに、全国(各国)の優れた研究を紹介し、実践に活かす研究を推進することができる。</li> <li>2) 研究により、実践を改善する風土を職場内に醸成することができる。</li> <li>3) 必要に応じて大学や専門機関など外部の助言者や研究者について活用することができる。</li> <li>4) コミュニティの問題を研究課題として、多角的な視点から研究ができるよう指導する。</li> </ol>
	④研究成果を公表し、普及する能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 奈良県公衆衛生学会に参加する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究結果を学会や専門誌に発表できる(論文を作成できる)。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記のリーダーシップをとることができる。</li> <li>2) 創出した研究成果を活用できる。</li> <li>3) 研究を実践し、対外的な報告方法を工夫することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 左記についてスタッフの研究遂行の指導ができる。</li> <li>2) 様々な研究成果を収集し活用できる。</li> <li>3) 研究発表の機会の情報提供、計画への助言、研究遂行の助言ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職場内における学会発表や論文作成を推進することができる。</li> <li>2) 研究成果活用による実践の改善度を評価できる。</li> <li>3) 研究成果の共有する機会を創出し、成果を普及するための指導ができる。</li> </ol>